

47 ひらつかの風

No. 号
2025年11月号
(令和7年)

ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちが、これから活動しようとしている人たちを応援します。



CONTENTS

- P.1 平塚市情報
- P.2～3 センターレポート 第5回防災座談会
- P.3 センターレポート 「どまのまど～長月の会～」
- P.4 センター情報・平塚市情報

センター
レポート

第5回 防災座談会 ～市民活動団体による防災連携ネットワークづくり～



平塚市情報

令和8年度 市民活動推進補助金の募集開始・ 応募説明会の開催



令和8年度補助希望団体の募集を開始します。
詳しくは下記の市ウェブサイトをご覧ください。
また、応募の手引きは平塚市役所(協働推進課)、ひらつか市民活動センターでも配布しています。
募集期間 ● 令和7年(2025年)11月14日(金)～令和8年(2026年)1月27日(火)
応募説明会 ● 令和7年(2025年)12月13日(土)10:00～ ひらつか市民活動センター
※応募方法等は市ウェブを御参照ください

http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyodo/page37_00016.html

問い合わせ先 ◆ 平塚市協働推進課 電話 ◆ 21-9618



こちらから
ご覧に
なれます

● ひらつか市民活動センターのホームページをご活用 ください!!



センターから発信する様々な報告・情報を
右記の二次元コードから見られます。



センター情報



助成金情報



団体イベント情報



センター開催報告

第5回 防災座談会

～市民活動団体による防災連携ネットワークづくり～



9月20日(土)14:00～16:30 第5回防災座談会を開催しました。昨年度、センター登録団体を対象に行ったアンケートでは、68団体が「災害時に協力できる」と回答があり、そのうち58団体から福祉相談や傾聴・外国籍の方に向けた支援・学習支援など、具体的なご提案をいただきました。当日は16団体23名、東海大学生や関係者合わせて26名にお集まりいただき、防災連携をテーマに交流を図りました。

第1部 基調講演

令和6年の台風第10号では、平塚市内で床上浸水53棟、床下浸水1800棟、崖崩れ47件など、記録的な豪雨による甚大な被害が発生しました。災害対策本部の設置や避難指示の発令、避難所の開設、罹災証明書の発行など、行政による迅速な対応が行われ、災害ボランティアセンターも設置されました。今回の防災座談会では、平塚市災害対策課の大平啓太主査を講師に迎え、災害対応の実例を基に、市の災害対策の現状と課題についてご講演頂きました。

●台風第10号への対応

避難指示は8月29日から順次発令され、最大で16名が避難所に避難。災害対策本部が設置され、消防団による広報活動や交通整理、罹災証明書の発行、罹災ごみの収集など、応急対策を実施した。

●災害ボランティアセンターの設置

平塚市社会福祉協議会との協定に基づき、災害ボランティアセンターが、令和6年9月4日から10月31日まで開設された。家財や土砂の撤去、家屋の片付けなど、延べ172人のボランティアに従事していただいた。

●能登半島地震への支援

平塚市からは消防・医療・保健・行政職員など計72名が石川県へ派遣され、捜索救助、避難所支援、物資拠点業務など多岐にわたる活動を行った。

●市民活動団体との連携

災害時の支援体制を強化するためには、平時からの市民活動団体との連携が不可欠とし、支援可能な団体の活動内容の「見える化」や、災害発生後の調整・連携方法の具体化、受援体制の整備などが今後の課題として挙げられた。

大平さんから「行政が被災者にできることは避難所の設置や飲料水の提供など、法に規定された限られたものになる。自宅の片づけや土砂の撤去など、きめ細かな支援は公助のみでは難しく、ボランティア団体との連携が重要」とのお話がありました。

報告を通じて、「備えること」は特別なことではなく、日常の延長線上にあるというメッセージが伝えられました。市と市民団体、市民がそれぞれの役割を理解し合い、つながりの中で支え合う防災のあり方が、今後さらに問われています。



第2部 団体交流タイム

◆センターからのアンケート結果報告、参加団体の皆さんとの情報交換

災害時の市民活動団体の役割や、行政との連携のあり方について、活発な意見が交わされました。はじめに各地域の防災訓練に年間で70回以上参加している女性防災クラブ平塚パワーズの菅野会長より活動を通じて感じていることをお話いただきました。防災活動の参加者を呼びかける際に、「自治会の役員をしているが、自分自身も高齢で動くのが大変なのに、訓練に参加してとは言いづらい」「団地の高層に住んでいるので、階下まで降りていくのが大変」「災害用の飲料水の確保とはいえ、2リットルのペットボトル2本持って階段を上がるのは辛い」という声を聴き、避難行動や情報取得に課題を抱える高齢者が多く、地域での支え合いが不可欠との指摘がありました。

一方でセンターに登録いただいている市民活動団体も高齢化が進み、災害に遭った際の対応策がなされているか、そのあたりも気になります。実際に参加された団体に聞いたところ、団体内で災害時の対応や訓練、また連絡網など徹底されている団体は少数でした。災害時のみならず平時の安全対策が重要であることを再確認しました。

当日は、東海大学からは学生2名が参加。能登半島地震で被災した経験や、災害ボランティアとして活動した体験を共有頂きました。

◆ワークショップでは・・・

団体間の連携やネットワークを進めるには、お互いを知ることが重要です。ワークショップでは、活動分野の違う団体が防災という一つのテーマで意見交換し、自分の団体の強み・他団体との連携に必要なことを可視化し、表にまとめ発表しました。「災害時に何ができるか、平時から整理しておくことが大切」「団体間の交流を深めながら、無理なく連携できる仕組みが必要」の声があがり、支援活動の見える化や、情報共有の方法、受援体制の整備など、具体的な課題も共有されました。参加者からは「交流を深めるきっかけになった」などの感想が寄せられ、団体間の連携に期待する声が上がりました。



▲交流の様子



▲ひらつか災害ボランティアネットワーク
斎藤さん

アンケート結果

- アンケート回答団体のリーダー会議を年1～2回開催し、相互の団体特性を理解し、いざという時に連携できるネットワークを築いておくことが出来ればよいと思う。
- 災害の際、様々なお困りごとが出るので、ボランティアセンターで調整して市民活動センターで協力を依頼して住民ニーズと各団体の協力を繋げていきたいと思います。
- 「災害時の対応ができること」のアンケート結果がまとまったのでそれを活かした情報共有と連携がスムーズに進められることを願っています。
- センターで集まってコミュニティを広く作っていききたい。
- 顔の見える防災ネットワークの共有がしたい。

参加者：登録団体16団体22名、社会福祉協議会1名、監査委員事務局1名、東海大2名、計26名
(その他：災害対策課1名、取材4名、センタースタッフ4名)



登録団体から災害時に協力できるとお申し出のあった支援内容

災害前・災害直後・災害後のあらゆる局面でご協力いただけることがわかりました。いざという時のために、連絡が取れるような関係を深めていきたいと考えています。

- 復興作業(重機等を使用しての対応、他)
- 炊き出し
- 物資支援・協力
- 福祉相談(高齢・障がい・精神・生活支援・制度 etc.)
- 外国籍の方々に向けた支援
- 医療(薬)
- 傾聴
- 子ども支援(学習支援・レクリエーション支援)
- イベントでサポート
- 情報発信：災害前・災害直後



▲女性防災クラブ
平塚パワーズの
菅野さん

センター レポート

何かやりたい人が話す場とつながりの場 「どまのまど～長月の会～」



「何かやりたい」「まちづくりに興味関心がある」人が集まって
思いの丈を語り、参加者と一緒に広げていく場『どまのまど』。
第3回開催の様子を土間の窓から覗いてみました。

日時 ● 9月29日(月) 18:00～19:30

会場 ● ひらつか市民活動センターミーティングスペース

参加者 ● 11名

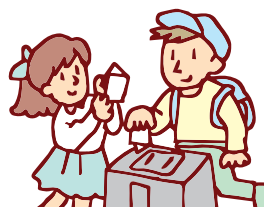


「どまのまど～長月の会～」は、語り部に「ちがさきこども選挙」発起人の池田一彦さんをお迎えしました。選挙日を「こどもも大人も、みんながまちの未来を考える日に」として茅ヶ崎から始まった「こども選挙」は、実際の候補者の中から投票をする“模擬選挙”を通じて、こどもたちの主権者意識を育むことを目的に開催されています。

■こどもの、こどもによる、こどものための選挙

公募により集まった「こども選挙委員」は“まち”について学ぶワークショップを通し、市長選候補者への質問を考えます。質問を候補者へ届け、その回答はWeb上で公開。こどもたちは公開された情報を元に投票に臨みます。こどもたちからは「早く本当の選挙に行ってみたい」「茅ヶ崎のことを大切に思えるようになった」などの声があったそうです。また、この実践から生徒会に立候補し生徒会役員となった生徒や、実際に市議会に立候補し見事当選し議員となった方もいたとのこと。

この取り組みが全国で展開できるよう、ロゴや実施にあたってのノウハウは無償で公開されており、現在は茅ヶ崎を含め18地域で展開されています。



■センターの土間から見たこと

こども選挙を行った経験から、こどもたちが真剣に学び、考え、実行していく姿に「こどもは壁をつくらなければどこまでもいけると感じた」と話す池田さん。選挙権がなくても、こどもが社会に関わり、声を届けることで何かが変わるのかもしれないという思いのもと、活動の継続に向けたチャレンジをしています。

● 次回は11月25日(火)18:00～語り部は市民活動団体『ママぎゅっと』代表の宇佐美陽子さんをお迎えします。どうぞセンターの土間へお気軽にお越しください♪

ご参照ください!



▲ちがさき
「こども選挙」HP



▲ママぎゅっとHP

センター情報

●団体活動にお役立てください!

令和7年度 第4回支援者間交流会

「つながりの貧困を解消するために～ 自立生活支援の現状から学ぶ」

お互いが顔の見える関係を築き、多機関のつながり、ネットワーク形成の一助として開催します。講師からは活動のお話や現場のリアルな声を聞き、多機関連携のヒントを探ります。

日時●12月10日(水) 13:30～16:00(受付開始13:00～)

講師●認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 大西 連 氏

会場●ひらつか市民活動センター会議室 AB

対象●平塚市内の介護事業所・地域包括支援センター・相談支援機関(高齢・障がい・子ども等)、NPO団体、ボランティアグループ、地域の福祉関係者等、行政職員

定員●50名(先着順/要申込/参加費無料)



企業・NPO・大学パートナーシップミーティング in 平塚・大磯・二宮 ～人と人、地域がつなぐ共創の輪～

地域活性化をテーマに取り組まれている団体の事例をもとに連携・協働によって生まれる取り組みやその活動の広がりについて考えます。

日時●2026年1月21日(水) 14:00～17:00(受付13:30～)

会場●ひらつか市民活動センター会議室 AB

対象●地域課題の解決のためにパートナーを探しているNPO/市民活動団体・地域貢献活動など地域との関わりに関心のある企業・大学関係者

定員●30名(先着順/要申込/参加費無料)



●年末年始センターのご利用についてのお知らせ

- 閉館日…12月28日(日)～1月4日(日) ●年始は1月5日(月)より開館いたします。
- 会議室の予約について…令和8年3月28日(土)～4月4日(土)の予約は令和7年12月27日(土)から受け付けます。

平塚市情報

●令和7年度 実施協働事業中間ヒアリング・令和8年度 実施協働事業公開プレゼンテーションを開催しました!

令和7年10月2日(木)に令和7年度に実施している提案型協働事業の中間ヒアリングと令和8年度に実施する提案型協働事業の公開プレゼンテーションを開催しました。

今回は、継続の市民提案型協働事業1件の公開プレゼンテーションが行われました。

協働推進課では、協働事業に挑戦したい市民活動団体を募集しています。

お問合せ等、お待ちしております。

お問い合わせ ● 平塚市役所協働推進課 市民協働担当 電話:0463-21-9618



編集後記

防災座談会で交わされた団体の皆さんの一言一言が、今も心に残っています。

『結局は顔の見えるつながりが大切なよね』、『出来ることを持ち寄れば、いざという時に地域のお役に立てるね』。そんな空気が、地域を少しずつ変えていくのかもしれない。

市民活動センターに渦巻く“利他の精神”が平塚のまちに広がっていきますように。(さ)



編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00～22:00 年末年始、施設点検日を除く)

〒254-0045

神奈川県平塚市見附町 1-8

TEL ● 0463-31-7571 FAX ● 0463-35-6601

Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net

URL ● <http://hiratsuka-shimin.net>

センター登録団体数(2025年10月15日現在)

登録団体数 ● 454 団体

(内訳 市民活動団体…330 団体、一般団体…124 団体)



センターのマスコット たすけくんといいちゃん

